

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局



(43) 国際公開日  
2004 年 11 月 25 日 (25.11.2004)

PCT

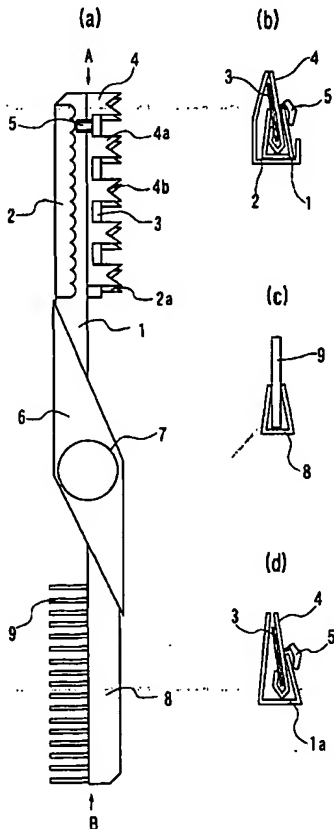
(10) 国際公開番号  
WO 2004/101234 A1

- (51) 国際特許分類: B26B 21/12 (72) 発明者; および  
(21) 国際出願番号: PCT/JP2004/006645 (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 岡崎 勉  
(22) 国際出願日: 2004 年 5 月 18 日 (18.05.2004) (OKAZAKI TSUTOMU) [JP/JP]; 〒7550021 山口県宇  
部市常藤町 4 番 3 6 号 Yamaguchi (JP).  
(25) 国際出願の言語: 日本語 (74) 代理人: 鎌田 文二, 外 (KAMADA BUNJI et al.); 〒  
5420073 大阪府大阪市中央区日本橋 1 丁目 1 8 番  
1 2 号 Osaka (JP).  
(26) 国際公開の言語: 日本語 (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が  
可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR,  
(30) 優先権データ: 特願 2003-140446 2003 年 5 月 19 日 (19.05.2003) JP BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM,  
DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU,  
ID, IL, IN, IS, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT,  
(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社 LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI,  
社トリコインダストリーズ (TORICO INDUSTRIES NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG,  
LTD.) [JP/JP]; 〒5560022 大阪府大阪市浪速区桜川 2 丁 SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ,  
目 9 番 4 号 Osaka (JP). VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.

[続葉有]

(54) Title: AESTHETIC INSTRUMENT

(54) 発明の名称: 理美容具



(57) Abstract: An aesthetic instrument allowing the easy adjustment of the amount of combing hair in hair cutting and capable of reducing hair dressing service cost by forming a blade in an efficiently usable structure, comprising a grip part (6) and razor parts (1), (2), (3), and (4) having the blade (3) and connected to the grip part (6). The razor parts (1), (2), (3), and (4) further comprise a razor holding part (1) connected to the grip part (6), a blade holding part (4) forming at least two first projected pieces (4a) having cutouts (4b) in one sides thereof, holding the blade (3) between the one side and the other side thereof, and replaceably fitted to the razor holding part (1), and a protective part (2) forming at least two second projected pieces (2a) having cutouts (2b). The blade (3) is exposed to the outside through a clearance formed by the first projected pieces (4a) and the second projected pieces (2a).

(57) 要約: ヘアカット時において梳く髪量を容易に調節することができ、刃を効率的に利用可能な構造として理容サービスコストを削減することのできる理美容具を提供するために、この発明は、把持部 6 と、刃 3 を備えて把持部 6 に連結されるレザー部 1、2、3、4 とからなる理美容具において、レザー部 1、2、3、4 は把持部 6 に連結するレザー保持部 1 と、一の辺に切欠き 4b を備えた少なくとも 2 の第 1 の突出片 4a を形成しかつ一の辺と他の辺との間に刃 3 を保持しレザー保持部 1 に交換可能に取設される刃保持部 4 と、切欠き 2b を備えた少なくとも 2 の第 2 の突出片 2a を形成する保護部 2 とを有し、第 1 の突出片 4a と第 2 の突出片 2a によって形成される隙間から刃 3 を露出させるものである。

WO 2004/101234 A1



(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

添付公開書類:

— 国際調査報告書

## 明 細 書

## 理美容具

## 技術分野

[0001] 本発明は、毛髪を梳く時に使用する理美容具に関する。

## 背景技術

[0002] 一般に、近年ではカラーリングやカット方法によって軽い質感や柔らかい質感をだすヘアスタイルや毛先に動きのあるヘアスタイルが好まれている。そして、このようなヘアスタイルはシザーやレザーを用いて量の多い髪を梳く技法を用いることで創りだされている。

[0003] しかしながら、レザーを用いて髪を梳く場合には力の加減や髪に対するレザーの角度によって梳かれる髪の量が変わってしまうため、熟練した技術が必要とされるという課題があった。また、髪をカットする場合には櫛で髪を梳かしてカットした髪を除去しながらカットするのが一般的であり、カット作業において櫛とレザーを交互に持ち替えるなければならないという課題があった。

[0004] このような課題に対処するため、いくつかの発明及び考案が開示されている。

例えば、特許文献1には、「理美容用レザーホルダー」という名称で、髪を梳く量を調節することのできるレザーに関する発明が開示されている。

[0005] 以下、図4を参照しながら、特許文献1に開示された技術について説明する。図4(a)は理美容用レザーホルダーを用いたカット時の毛髪梳き量の状態図であり、図4(b)は(a)のカットされた毛髪の状態図である。

特許文献1に開示された理美容用レザーホルダーは、図4(a)に示すように把持部の一端に設けられた本体13が髪をカットするレザー14と、これを保持するホルダー部15とから構成されている。また、ホルダー部15の一辺には複数の突出片16が形成されており、これの各先端には溝17が設けられている。このため、このような構造の理美容用レザーホルダーを用いて髪を梳く場合には、溝17に蓄えられた毛髪18はカットされずレザー14と接触している毛髪18のみがカットされ、図4(b)に示すように毛髪18を部分的にカットすることができる。

[0006] また、特許文献2には、「ヘアカット用レザー」という名称で、毛髪を一定間隔ごとに一定の幅で確実に削ぎ落とすことのできるヘアカット用レザーに関する発明が開示されている。

[0007] また、特許文献3には、「髪具」という名称で、櫛とレザーが一体となった髪具に関する発明が開示されている。

[0008] 特許文献1:特開平10-249075号公報

特許文献2:特開2000-61175号公報

特許文献3:特開2001-300159号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0009] しかしながら、上述の従来技術においては、特許文献1に開示された発明においては、ホルダー部に溝を具備した複数の突出片を設けることで髪を部分的にカットでき、しかも、突出片の幅を変えることで梳く髪を毛の量を調節することができるものの、梳く髪を毛の量の調整は幅の異なる突出片を有する同形状の理美容用レザーホルダーを用意しなければならず、これらを持ち替える作業を必要とするという課題があった。また、ホルダー部に保持された刃は毛髪をカットするのに使用する部分とホルダー部に隠れて使用されない部分とがあり、この使用されない部分を残したまま刃を交換するのは不経済であり理容サービスのコストを向上させる要因となるという課題があった。

[0010] 特許文献2に開示された発明においては、櫛部と刃を密着させた構造とすることで切断したい部分の毛髪のみを確実に切断することができるものの、特許文献1と同様に1つのヘアカット用レザーで梳く髪を量を調整可能には構成されておらず、櫛部に隠れた使用されない刃の部分を利用できるようなものでもなくサービスコストを向上させる要因となるという課題があった。

[0011] 特許文献3に開示された発明においては、櫛部とレザー部をヒンジ部を介して一体に設けることでカット作業を向上させることができるものの、特許文献1や2と同様の理由からサービスコストを向上させる要因を含んでいるという課題があった。

[0012] 本発明はかかる従来事情に対処してなされたものであり、ヘアカット時におい

て梳く髪のを容易に調節することができ、しかも刃を効率的に利用可能な構造として効率的にヘアカットが可能で理容サービスコストも削減することのできる理美容具を提供することを目的とする。

#### 課題を解決するための手段

- [0013] 上記目的を達成するため、請求項1記載の発明である理美容具は、把持部と、刃を備えて把持部に連結されるレザ一部とからなる理美容具において、レザ一部は把持部に連結するレザ一保持部と、切欠きを備えた櫛歯状の第1の突出片を形成するとともに刃を保持しレザ一保持部に交換可能に取設される刃保持部と、切欠きを備えた櫛歯状の第2の突出片を形成し前記刃保持部とは別個独立に設けられる保護部とを有し、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間から刃を露出させるものである。

上記構成の理美容具においては、第1の突出片と第2の突出片で刃を挟持する構造とすることで第1の突出片あるいは第2の突出片に設けられた切欠きで切断したくない毛髪を保持し、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間から露出される刃で残りの毛髪を切断するという作用を有する。

- [0014] また、請求項2記載の発明である理美容具は、請求項1記載の理美容具において刃保持部又は保護部が、指を掛止してスライドさせるための爪部を具備してなるものである。

上記構成の理美容具においては、刃保持部又は保護部に爪部を設けることでレザ一保持部に対して刃保持部又は保護部をスライド可能とし、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間の幅を調整可能とするという作用を有する。

- [0015] 請求項3記載の発明である理美容具は、請求項1又は請求項2に記載の理美容具においてレザ一保持部と保護部が一体に形成されているものである。

上記構成の理美容具においては、部品数を削減するという作用を有する。

#### 発明の効果

- [0016] 以上説明したように、本発明の請求項1に記載の理美容具においては、第1の突出片と第2の突出片との隙間から露出する刃の幅と同様の毛髪量を部分的に切断することができる。

[0017] また、本発明の請求項2に記載の理美容具においては、請求項1の発明に加えて、第1の突出片と第2の突出片によって形成される隙間の幅、すなわち、露出する刃の幅を調整可能とすることで所望の量の毛髪を梳くことができるとともに、刃の露出幅の異なる理美容具を複数用意して作業時にこれらを持ち替える手間を省くことができる。

[0018] 特に、本発明の請求項3に記載の理美容具においては、レザー保持部と保護部を一体に設けることで部品数を減らしてコストを削減することができる。

発明を実施するための最良の形態

[0019] 以下に、本発明に係る理美容具の実施の形態を図1乃至図3に基づき説明する。

[0020] 図1(a)は本発明の実施の形態に係る理美容具の概念図であり、(b)は図1(a)中符号Aで示される方向への矢視図であり、(c)は図1(a)中符号Bで示される方向への矢視図であり、(d)は図1(b)中のレザー保持部1と保護部2が一体となった状態の概念図である。

図1(a)において、理美容具は把持部6と、この両端に設けられるレザー保持部1と保持部8から構成され、レザー保持部1と保持部8にはそれぞれ毛髪を梳くためのレザーユニット、櫛9が取外し可能に設けられている。

レザー保持部1に取付けられ今回の発明の特徴でもあるレザーユニットは刃3を内包した刃保持部4と、刃3を挟むようにして刃保持部4の反対側に設けられた保護部2とから構成されており、刃保持部4及び保護部2の縁辺にはそれぞれ切欠き2b、4bを具備した複数の突出片2a、4aが設けられている。さらに、刃保持部4には凸状の爪5が具備されており、これに指を掛止して刃3を内包した刃保持部4をレザー保持部1内でスライドさせることができる構造となっている。このため、刃保持部4をスライドさせることで突出片2aと突出片4aとの間隔を変える、すなわち、突出片2aと突出片4aとの間から露出する刃3の幅を調節することができるようになっている。詳しい内容については図3を参照しながら説明する。なお、特許請求の範囲におけるレザー部は、レザー保持部1とレザーユニットを含むものである。

[0021] また、図1(b)に示すように、刃保持部4はレザー保持部1内に内包された構造となっており、爪5を用いてレザー保持部1内で図1(b)の手前側にスライドさせてレザー

保持部1から取外しができる構造となっている。保持部8においても図1(c)に示すように櫛9が保持部8内に内包された構造となっており、図1(c)の手前側に櫛9をスライドさせて取り外すことができるため、他の形状の櫛やレザーの替え刃と取替えが可能な構造となっている。このため、図1(a)においては、保持部8には櫛9が装着されているが、櫛ではなくレザー保持部1とは別にレザーの替え刃を装着することも可能である。レザー保持部1においても、同様の取替えを行うことができる。したがって、1つの理美容具において様々な形状の櫛やレザーを取替えて使用することができる。

[0022] 図1(d)は図1(a)中の保護部2とレザー保持部1が一体となった状態の理美容具を示す図であり、符号1aはこれに対応するレザー保持部である。図1(a)に示す理美容具では保護部2とレザー保持部1が別々であったので保護部2がレザー保持部1に対して取外しが可能であり、保持部8と同様にレザー保持部1にも櫛9や他の形状のレザーの替え刃を挿入することができるという利点があったが、図1(d)に示すようにレザー保持部1と保護部2とを一体とすることによって部品数を少なくして構造を簡略化できると同時に製造コストを削減できるという効果がある。

[0023] 図2(a)は図1(a)中の刃3、刃保持部4及びレザー保持部1を示す斜視図であり、図2(b)は図2(a)中の爪5を他の形状にした例を示す概念図である。図2において、図1に記載されたものと同一部分については同一符号を付し、その構成についての説明は省略する。

図2(a)に示すように爪5の両サイドは凸状になっている。このため、カット作業中でも理美容具を手を持った状態でこの爪5の凸部分に理美容具を持った手の指を掛止してレザー保持部1内で刃保持部4をスライドさせて突出片2aと突出片4aとで形成される隙間の幅、つまり、刃3の露出幅を変えることができる。

[0024] 図2(b)では図2(a)中の爪5のように凸部分を設ける代わりに、爪5aに滑り止め5bを設けたものである。滑り止め5bとしては細溝を形成してもよいし、逆に細い凸状の山部を設けてもよい。このような形状とすることによっても、指1本で刃保持部4のスライド操作を行うことができ、片手のみで櫛とレザーの使い分け作業、カット作業及び露出する刃3幅の調節を行うことができ、作業効率を向上させることができる。

なお、爪5の設置位置は、把持部6は反対側の端部に限定するものではないが、へ

アーカットに支障のない位置に設けることが必要である。また、図1や図2においては刃3が露出している部分に設置されているが、もちろん突出片4aの部分に設けても構わない。ただ、髪を梳く方向に抵抗が少ないようにしておくといよい。

[0025] ここで、図3を用いて毛髪の梳き量の調整方法について説明する。

図3(a)は本発明の実施の形態に係る理美容具の保護部2と刃保持部4が重なっている状態を示す概念図であり、図3(b)は(a)でカットされた毛髪の状態図であり、図3(c)は本発明の実施の形態に係る理美容具の保護部2と刃保持部4が重なっていない状態を示す概念図であり、図3(d)は(c)でカットされた毛髪の状態図である。図3において、図1及び図2に記載されたものと同一部分については同一符号を付し、その構成についての説明は省略する。

[0026] 本発明の理美容具を用いて毛髪を梳いた場合には一部の毛髪が切欠き2b、4bに蓄えられて切断されずに残り、切欠き2b、4bに蓄えられていない残りの毛髪のみが突出片2aと突出片4aの間から露出している刃3によってカットされる構造となっている。

したがって、図3(a)では、刃保持部4の突出片4aと保護部2の突出片2aとが重なっており、刃3は突出片4a、4aの間隙3aだけ露出しているので、図3(b)に示すように突出片4aに蓄えられた毛髪はカットされずに残り、刃3と接触する部分、つまり、間隙3aと同様の幅の毛髪のみが部分的にカットされる。符号10aはカットされた毛髪の形状である。

[0027] 一方、図3(c)は、刃保持部4の突出片4aと保護部2の突出片2aとが少しずれている状態であり、これは爪5に指を掛止してレザー保持部1内で刃保持部4をスライドさせることによってこの状態にすることができる。また、露出している刃3は図3(a)に示す間隙3aよりも狭い間隙3bの部分のみであり、図3(c)に示すように、突出片2aと突出片4aのいずれかにかかる部分、すなわち、間隙3cに蓄えられた毛髪はカットされずに残り、間隙3bの部分のみの毛髪がカットされる。これにより、図3(b)の毛髪10aよりも梳き量の少ない毛髪10bを得ることができる。

特許文献1に示すような理美容用レザーホルダーでは毛髪の梳き量を変えるには突出片の幅の異なるホルダー部を用意する必要があったが、本発明の理美容具で



ば、ヘアーカット時にレザー保持部1内で刃保持部4をスライドさせることによって露出する刃3の幅を自在に変えることができ、これにより所望の梳き量で毛髪をカットすることができる。

#### 図面の簡単な説明

[0028] [図1](a)は本発明の実施の形態に係る理美容具の概念図であり、(b)は図1(a)中符号Aで示される方向への矢視図であり、(c)は図1(a)中符号Bで示される方向への矢視図であり、(d)は図1(b)中のレザー保持部1と保護部2が一体となった状態の概念図である。

[図2](a)は図1(a)中の刃3、刃保持部4及びレザー保持部1を示す斜視図であり、(b)は図2(a)中の爪5を他の形状にした例を示す概念図である。

[図3](a)は本発明の実施の形態に係る理美容具の保護部2と刃保持部4が重なっている状態を示す概念図であり、(b)は(a)でカットされた毛髪の状態図であり、(c)は本発明の実施の形態に係る理美容具の保護部2と刃保持部4が重なっていない状態を示す概念図であり、(d)は(c)でカットされた毛髪の状態図である。

[図4](a)は従来技術に係る理美容用レザーレザー保持部を用いたカット時の毛髪梳き量の状態図であり、(b)は(a)のカットされた毛髪の状態図である。

#### 符号の説明

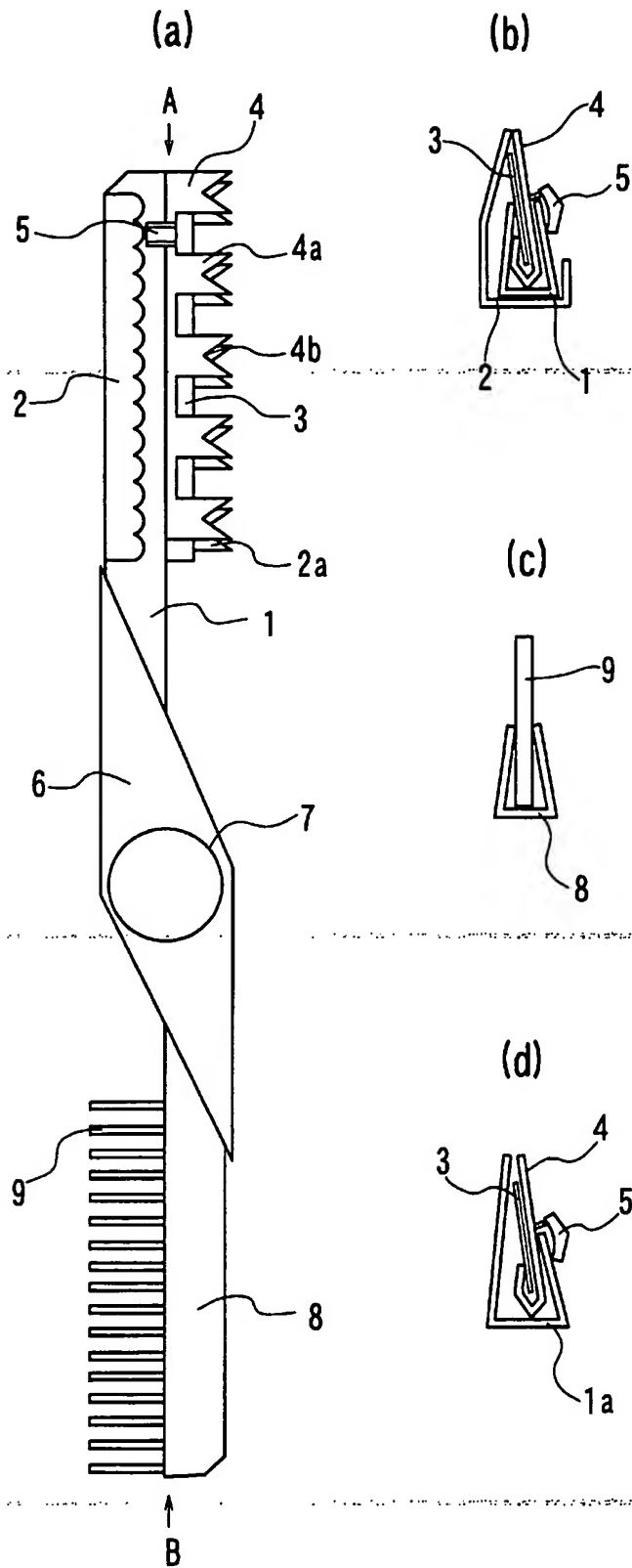
[0029]	1、1a	レザー保持部
	2	保護部
	2a、4a	突出片
	2b、4b	切欠き
	3	刃
	3a、3b、3c	間隙
	4	刃保持部
	5、5a	爪
	5b	滑り止め
	6	把持部
	7	リング

8            保持部  
9            櫛  
10a、10b   毛髪

### 請求の範囲

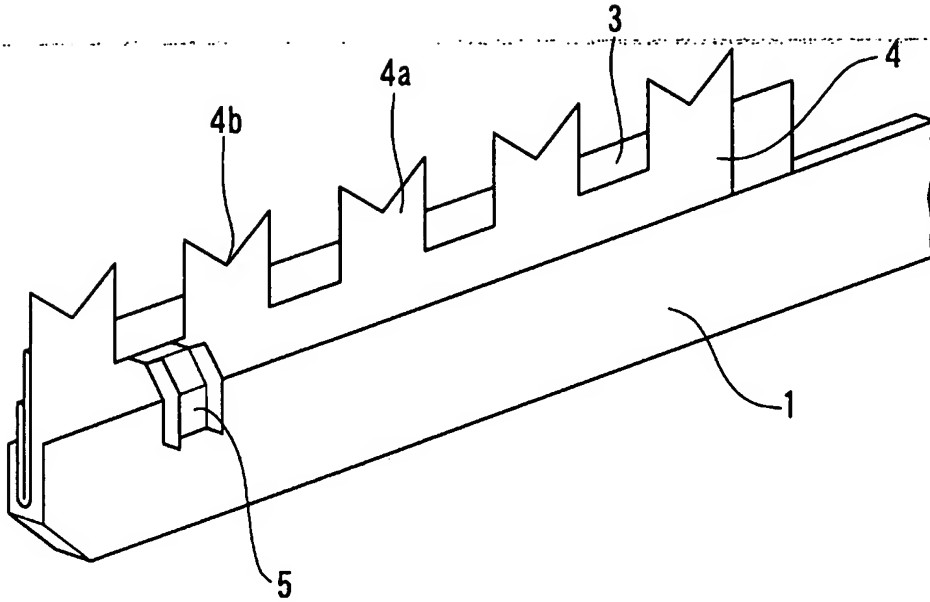
- [1] 把持部と、刃を備えて前記把持部に連結されるレザー部とからなる理美容具において、前記レザー部は前記把持部に連結するレザー保持部と、切欠きを備えた櫛歯状の第1の突出片を形成するとともに前記刃を保持し前記レザー保持部に交換可能に取設される刃保持部と、切欠きを備えた櫛歯状の第2の突出片を形成し前記刃保持部とは別個独立に設けられる保護部とを有し、前記第1の突出片と前記第2の突出片によって形成される隙間から前記刃を露出させることを特徴とする理美容具。
- [2] 前記刃保持部又は保護部は、指を掛止してスライドさせるための爪部を具備してなることを特徴とする請求項1記載の理美容具。
- [3] 前記レザー保持部と前記保護部が一体に形成されてなることを特徴とする請求項1又は請求項2に記載の理美容具。

[図1]

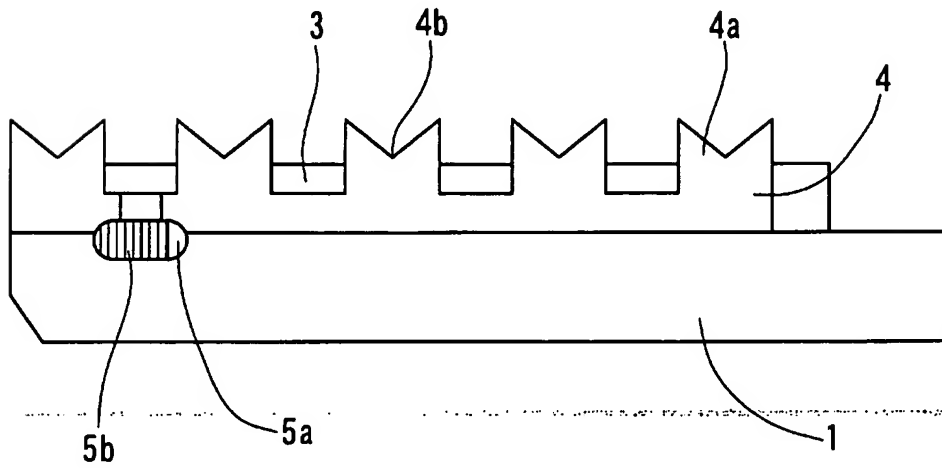


[図2]

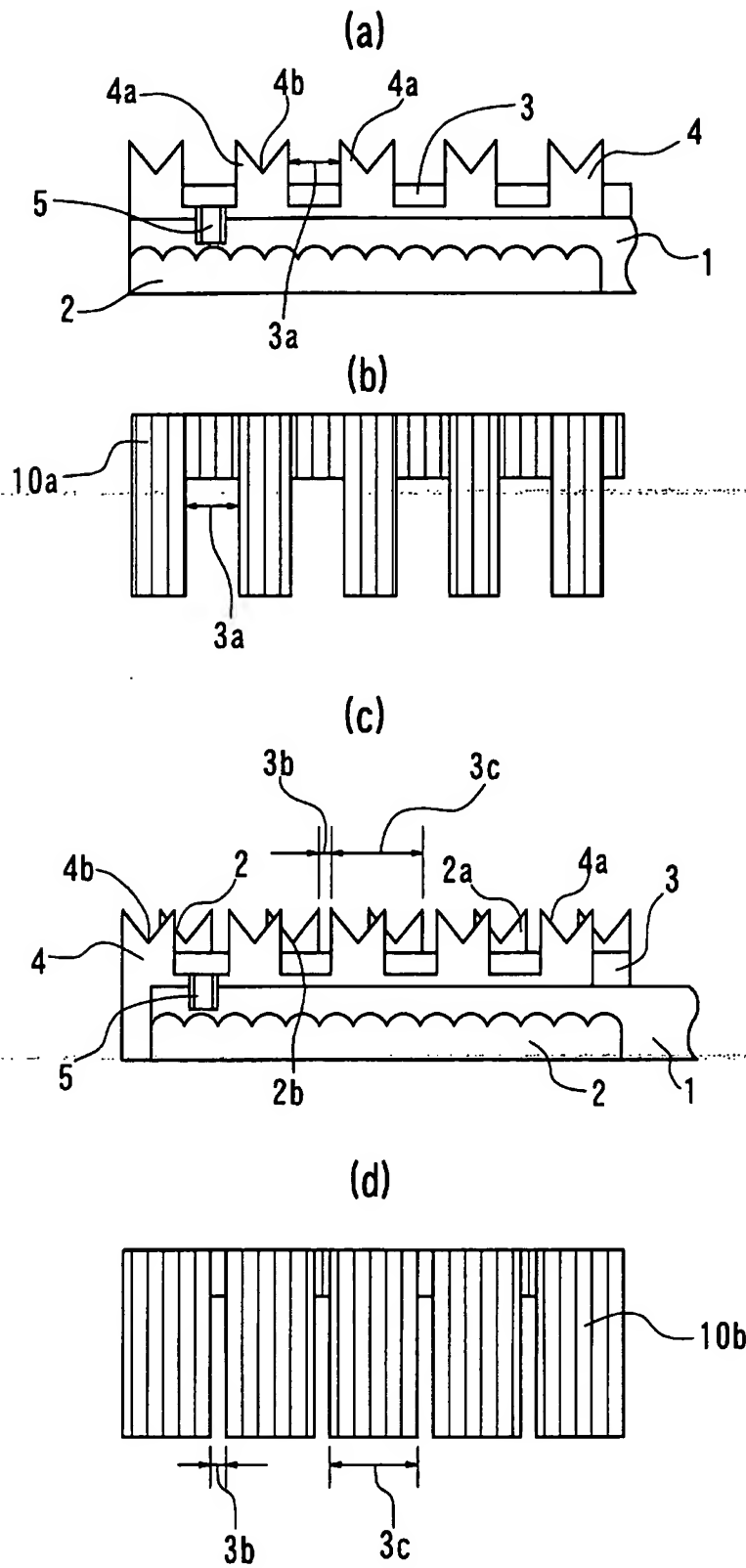
(a)



(b)

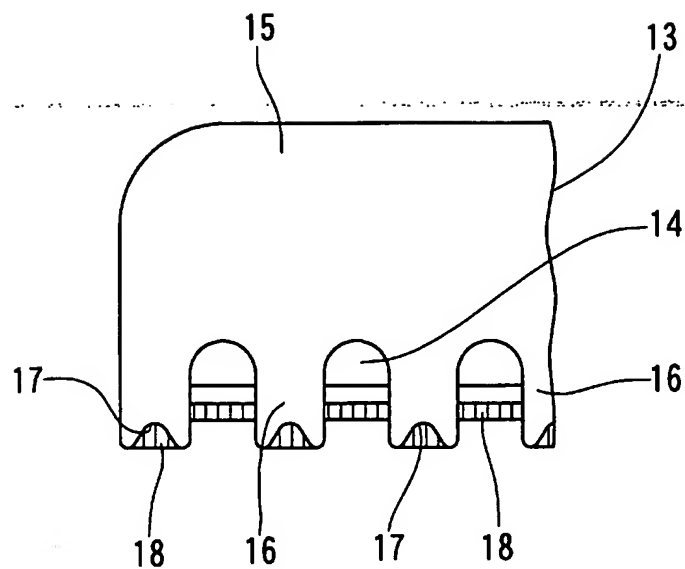


[図3]

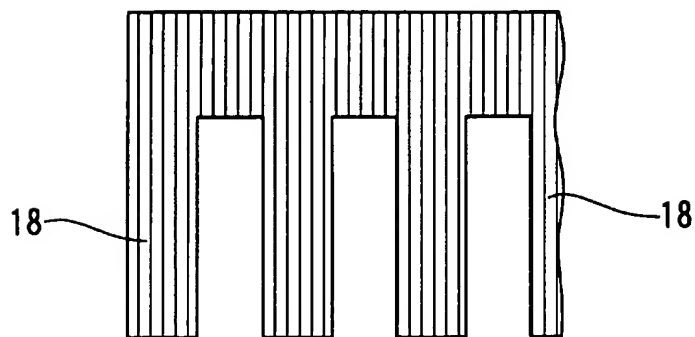


[図4]

(a)



(b)



# INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/006645

## A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl<sup>7</sup> B26B21/12

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl<sup>7</sup> B26B21/12, A45D24/10

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2004
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2004	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 34-1887 B1 (Abraham Nathaniel Spanel), 08 April, 1959 (08.04.59), Page 1, left column, line 12 to page 3, right column, line 17; Figs. 1 to 11 & GB 756882 A	1-3

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

\* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search  
09 June, 2004 (09.06.04)

Date of mailing of the international search report  
29 June, 2004 (29.06.04)

Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.



A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl <sup>7</sup> B26B 21/12		
B. 調査を行った分野		
調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))		
Int. Cl <sup>7</sup> B26B 21/12, A45D 24/10		
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの		
日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2004年 日本国実用新案登録公報 1996-2004年 日本国登録実用新案公報 1994-2004年		
国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
X	JP 34-1887 B1 (エイブラハム、ナセニエル、スペイ ネル) 1959. 04. 08, 第1頁左欄第12行-第3頁右欄第 17行, 第1-11図 & GB 756882 A	1-3
<input type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー 「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの 「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの 「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す) 「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願日の後に公表された文献 「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの 「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの 「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの 「&」 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日	09. 06. 2004	国際調査報告の発送日 29. 6. 2004
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 筑波 茂樹	3C 3320
		電話番号 03-3581-1101 内線 3322